



なか おさ ひろ ゆき
高山市議会議員 中 箴 博 之

新年の抱負「善政競争」

議会は市と対峙する立場にあるが、市政のため市との競い合いにより、良い市にしたい。

コロナ
毒を変じて、今年こそ希望の年に

明けましておめでとうございます。皆さま、ご健勝にて、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年もほぼ1年間、新型コロナウイルス感染拡大に伴う2度の緊急事態宣言発令など、2年目となったコロナ対応に翻弄された年となってしまいました。

春秋の高山祭屋台行事や多くの観光イベント、地域行事などの中止や延期が相次ぎ、市内経済はもとより人々の生活にも閉塞感が漂い、学校をはじめ地域や家庭でも様々な制約が課せられて、何より子どもたちにつらい思いを

させてしまいました。

けれども、コロナ禍は私たちの日常を単に止めただけではなく、これまでのあり方を見つめ直すことを促し、むしろ新しい日常を開く転機を与えてくれたのだと前向きに捉えて、今年こそ希望に満ちた明るい年にしていきたいものです。

ワクチン接種が順調に推移して、急速に感染拡大第5波が減衰した中で、「リベンジ消費」とも言われる旅行や消費へのニーズ回復など、少しずつ明るい兆しは見えてきており、予断は許さないものの全くの視界ゼロではないというのが実感です。

昨年、コロナ禍での開催について賛否が分かれた東京オリンピック・パラリンピック2020も、結果として多くの皆さんに感動と夢を与え、とりわけパラリンピックでは、全盲の方が全力疾走の走り幅跳びや長距離走、両腕のない方がバタフライ、両足のない方が平泳ぎなど、健常者には想像もつかないようなハンディを隠すことなく前向きにとらえて競技に挑む障がいをもつアスリートの姿が、私たちに共生社会の具現化という意識を強く植えつけました。

また、一昨年の豪雨災害で壊滅的な被害を受けた国道41号や乗鞍スカイラ

インが、施工業者や関係機関の並々ならぬご尽力により、誰もが想像した以上に早期復旧されたことを見ても、人を突き動かすのは損得ではなく利他の心や志だということをあらためて思い知らされた気がしています。

「変毒為薬」という言葉があるように、心さえ折れてしまわなければ、禍も変じて道は開ける、夢や希望、強い思いが逆境を跳ね返す大きな力であると教えられた出来事でした。

私たち高山市議会もまた、まちづくりの責任ある意思決定機関として、一部の地域や団体の代表にとどまらず、強い意志をもって現下の難題に挑み、希望を描ける未来を開くために市長との「善政競争」の中で、常に市民の皆さまの生活現場や事業者の最前線の生の声を拾い、「チーム議会」として豊かで暮らしやすいまちづくりのために一丸となって取り組む覚悟です。

名誉職ではなく責任職としての議員の重みを十分に自覚し、議会の活性化が結果として市民の皆さまの利益につながることを信じて、口先だけでなく現実の振る舞いで皆さまから頼りにされる議会を目指して精進してまいります。

引き続きのご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまそれぞれのご多幸と益々のご発展を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。